

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	Nonmelanoma skin cancer	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Epidemiologic investigation of nonmelanoma skin cancer mortality:the Rhode Island Follow-Back Study.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	SCCCQ5-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Invest Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	102	
	号	6	
	ページ	6S-9S	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1994	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Weinstock MA	Dermatoepidemiology Unit, V.A.Medical Center
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	Nonmelanoma skin cancer の死亡率の大きさや特徴を明らかにするための Rhode Island での follow-back study		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	多施設		
	対象者	1969 年から 1988 年に The Rhode Island Follow-Back Study 参加した米国人 nonmelanoma skin cancer 症例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 2 )		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )		
	介入 (要因曝露)	nonmelanoma skin cancer		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	真の死亡率	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
		2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	主な結果	<p>米国における nonmelanoma skin cancer の予後は非常に良いはずである。ただ、squamous cell carcinoma として登録されているものの中には、喉頭癌、咽頭癌、口腔癌などの頭頸部癌が誤って含まれている。むしろ squamous cell carcinoma の死亡例として登録されているものの 83% が頭頸部領域からの混入であることも明らかにされている。このような部分に修正を加えると 1987-1988 年における nonmelanoma skin cancer の死亡率は白人男性で 3.5% 程度、白人女性でおよそ 1.7%、黒人男性と黒人女性はいずれも 1.5% 未満となる。Nonmelanoma skin cancer の死亡率は最近 20 年間は低下したが、高齢化社会が到来したこともあって、死亡者の絶対数は増加している。また、その中では耳介に発生した有棘細胞癌のリスクが高かった。</p>		

	結論	<p>米国における nonmelanoma skin cancer の予後は非常に良いがその中では有棘細胞癌は予後は悪いほうである。また、このような結論を導きだすための登録システムをより正確にデータ集積できるよう改良していく必要もある。</p>
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	山崎直也
	レビュワーコメント	<p>エビデンスのレベル分類（ IV ）</p> <p>米国において nonmelanoma skin cancer は非常に頻度の高い疾患であり、日常的にみかけることができる腫瘍であるところは、疫学的に日本における現状と異なっており、注意が必要である。</p>